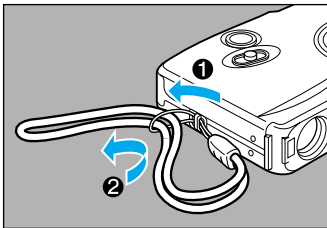


ストラップの 取り付けかた



カメラを落とさないように、付属のハンドストラップをカメラに取り付けて使用してください。

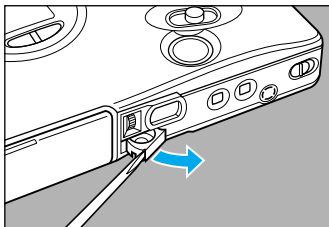
重要 カメラ本体に再生アダプターまたは液晶モニター(別売り)を取り付けた状態では、ハンドストラップを持って持ち運ばないでください。

1 ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。

ボタン電池の セット

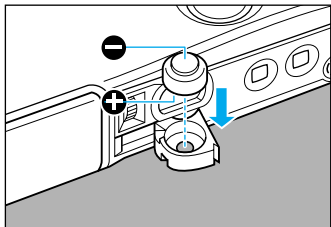
付属のボタン電池は2種類あります。酸化銀電池（SR41）は、設定した日付や時刻を保持するために本体にセットします。またリチウム電池（CR2025）は、リモコンにセットします。

電池を交換するときも同様に操作してください。



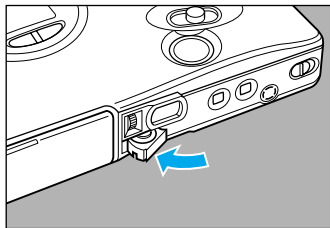
本体にデート用電池を
セットする

1 先の細いマイナスドライバーなどで、ボタン電池ホルダーを引き出します。

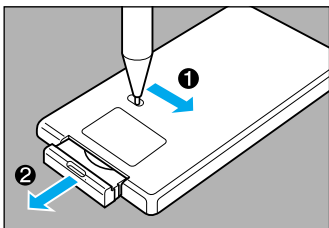


2 ホルダーに、ボタン電池の+極の面が下になるようにセットします。

重要 セットするボタン電池は、酸化銀電池（SR41）です。指定以外の電池はセットしないでください。

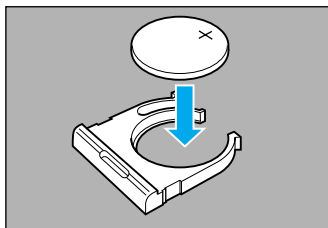


3 ボタン電池ホルダーを閉じます。



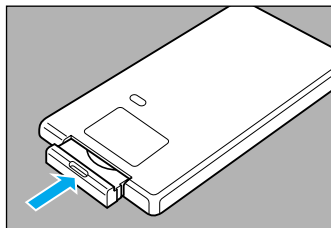
リモコンに電池をセットする

1 リモコンの裏側にある穴の中のツメを、ボールペンの先などで矢印の方向へ移動しながら電池ホルダーを引き出します。



2 ホルダーに、ボタン電池の+極の面が上になるようにセットします。

重要 セットするボタン電池は、リチウム電池 (CR 2025) です。指定以外の電池はセットしないでください。



SRAM カードに電池を セットする

SRAMカードに記録したデータを保持するために、リチウム電池をカードにセットしてください。電池を交換するときも同様に操作してください。

重要

- 詳細は、お買い求めになりましたSRAMカードの説明書をご覧ください。
- フラッシュメモリー搭載のメモリーカードをお使いになるときは、リチウム電池は不要です。

3 電池ホルダーを差し込みます。

警告

ボタン電池について

カメラ、リモコン、メモリーカードに使用しているボタン電池(酸化銀電池、リチウム電池)は、特に幼児の手の届かないところに置いてください。

万一、電池を飲みこんだ場合には、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意

ボタン電池について

火災や感電防止のため、次のことをお守りください。

- 金属製のピンセットなどで電池をつかまないでください。ショートすることがあります。

液漏れや破裂、ケガなどの防止のため、次のことをお守りください。

- 電池の + 極と - 極の向きを正しくセットしてください。
- 電池を分解や加熱、充電をしたり、水の中に入れてたりしないでください。

使用上のご注意

ボタン電池（酸化銀電池、リチウム電池）について

酸化銀電池（SR41）は、カメラ本体の時刻・日付の記録用に使用しています。電池の寿命は約2年です。

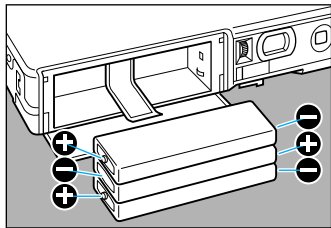
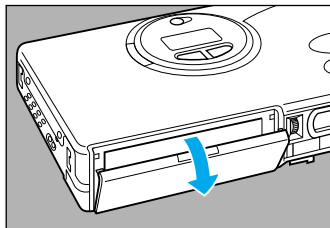
リチウム電池（CR2025）は、リモコン用に使用しています。電池の寿命は約1年です。

指定以外のボタン電池は使用しないでください。

接触不良を防ぐため、使用前に電池を乾いた布でよくふいてください。

電池を捨てるときは地域の回収ルートに従って適宜、処分してください。

バッテリーの セット



ご購入直後のリチャージブルバッテリー(ニカド電池:別売り)は、充電してありません。必ず専用のACアダプター/チャージャー(別売り)で充電してからお使いください。➡ P.28

本体にセットする

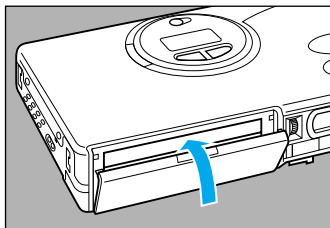
1 カメラの電源が切れていることを確認してから、電池ぶたを開けます。

補足 カメラの電源について ➡ 「電源を入れます」 P.48

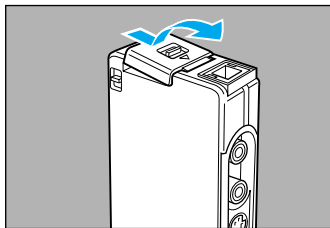
2 図のように、ニカド電池(DB-1S)をセットします。

重要

- 電池の極性を間違えないように気をつけてください。
- 電池取り出し用のテープの先端が奥に入らないようにしてください。
- 電池を取り出すときは、テープの先端を軽く引いてください。

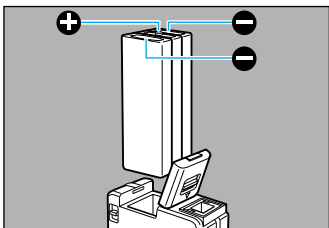


3 電池ぶたを閉じます。



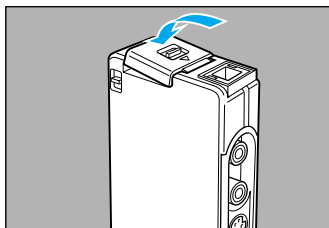
再生アダプターにセットする

1 つまみをスライドさせ電池ぶたを開けます。



2 ニカド電池 (DB-1L) をセットします。

重要 電池の極性を間違えないように気をつけてください。



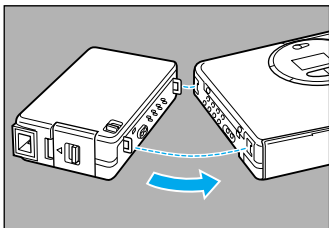
3 電池ぶたを閉じます。

再生アダプター を本体に 接続する

再生アダプターを本体に接続すると、本体内部と再生アダプターの両方のバッテリーから電源を供給できます。屋外などで使用するときには接続してお使いください。

また、バッテリーを充電するときなど、ACアダプター/チャージャーを使用するときにもお使いください。操作の前に、次のことを確認してください。

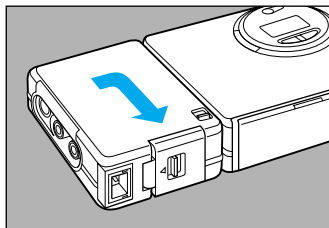
電源は切れていますか？ ➡ P.48



接続する

1 再生アダプターの取り付けつめをカメラの取り付け溝に合わせます。

重要 接続面がピッタリ合わない時は一度EJECTボタンを押してから再度取り付けてください。



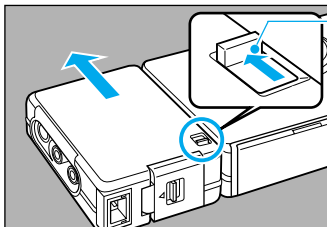
2 押しながら、矢印の方向にしっかりと固定するまでスライドさせます。

再生アダプターが外れ落ちないように、しっかりと固定されていることを確認してください。

重要 接続した再生アダプターや液晶モニターの着脱部に特に負荷がかかるような持ちかたは、しないでください。

補足

- カメラ本体に再生アダプターと液晶モニター(別売り)を同時に接続できません。
- 液晶モニターを接続する場合も同様に操作します。

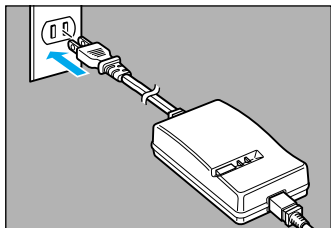
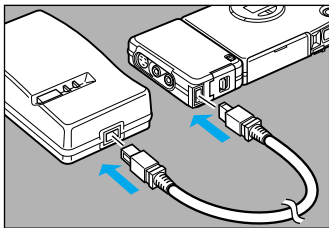


EJECT ボタン

取り外す

- 1** **①** EJECT ボタンを矢印の方向にスライドさせたまま、**②** 再生アダプターをスライドさせて取り外します。

バッテリーを充電する

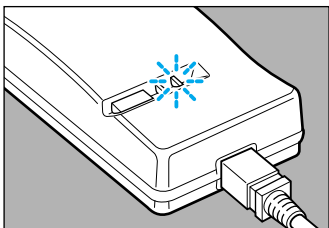
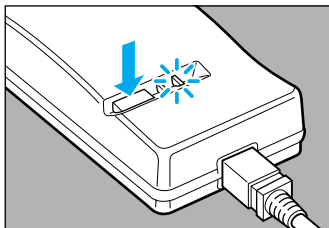


本体に接続した再生アダプターを利用して、本体や再生アダプターのバッテリーを充電します。充電するには専用のACアダプター/チャージャー(別売り)が必要です。

1 専用の接続ケーブルをACアダプター/チャージャーと再生アダプターの電源(DC入力)端子に接続します。

2 コンセントに電源コードを差し込みます。

- 重要**
- カメラの電源が切れていることを確認してから接続してください。➡ P.48
 - 再生アダプターのかわりに液晶モニター(別売り)を接続して充電することもできます。そのときは、液晶モニターの電源も「切」にしてください。



3 ACアダプター / チャージャーのモード切り替えボタンを約2秒以上押して、赤色の充電ランプを点灯させます。

重要 カメラおよび液晶モニターの電源が入った状態で充電すると、電源ランプ（緑）と充電ランプ（赤）が交互に点滅することがあります。このときは、直ちにモード切り替えボタンを押して電源ランプ（緑）を点灯させ、カメラおよび液晶モニターの電源を切ってから再び充電してください。

充電ランプ（赤）が点滅したら充電完了です。
電源コードと接続ケーブルを抜いてください。

補足

- カメラ本体と再生アダプターの両方にニカド電池がセットされているときは、並列充電（同時に充電）します。
- すぐに撮影したいときは、ACアダプター / チャージャーから直接電源を供給してください。➡「コンセントで使う」P.31

充電時間と撮影・再生の目安


バッテリーの充電時間と撮影するときの記録可能枚数の目安、再生するときの使用可能時間の目安は、次の表のとおりです。(常温時)

充電の組み合わせ	対象バッテリー	充電時間	記録可能枚数の目安	再生時間の目安	
			静止画	静止画	動画
カメラ+再生アダプター(空) または液晶モニター(空)	DB-1Sのみ	約1時間	約100枚	約25分	約13分
カメラ(空)+再生アダプター または液晶モニター	DB-1Lのみ	約2時間	約150枚	約40分	約20分
カメラ+再生アダプター または液晶モニター	DB-1S + DB-1L	約3時間	約250枚	約65分	約35分

再生時間の目安は、再生アダプターにテレビを接続したときの数値です。

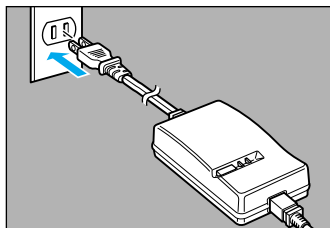
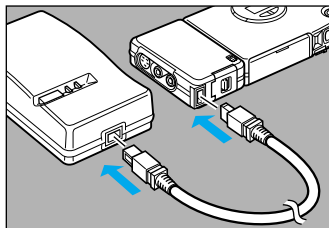
液晶モニター(別売り)を使用して撮影または再生するときは、上記の数値より少なくなります。

バッテリー(ニカド電池)だけのご使用になるときは、予備のバッテリーを用意してください。

電池マーク()の点滅は、ニカド電池の消耗を表しています。充電済みのニカド電池を準備してください。

カメラ本体にニカド電池を入れずに液晶モニターのニカド電池だけでお使いになる場合、液晶モニターを使いながら操作すると、ニカド電池ははやく消耗します。できるだけカメラ本体にも電池を入れてお使いください。

コンセントで 使う



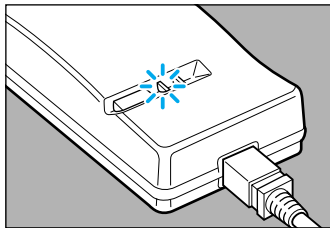
撮影・再生で長時間ご使用になる
ときは、カメラ本体に再生アダプ
ター、または液晶モニター（別売
り）を接続して家庭用コンセント
をお使いください。

1 専用の接続ケーブルを
ACアダプター/チャー
ジャーと再生アダプターの
電源（DC入力）端子に接
続します。

2 コンセントに電源コー
ドを差し込みます。

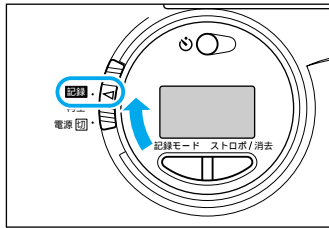
重要

- カメラの電源が切れていることを確認してから接続してください。➡ P.48
- 電源コードおよび接続ケーブルは、しっかり差し込んでください。メモリーカードへ記録中にコードやケーブルが外れると、カード内のデータが破壊されることがあります。



3 ACアダプター / チャージャーの緑色の電源ランプが点灯していることを確認します。

補足 充電ランプ（赤）が点灯しているときは、ACアダプター / チャージャーのモード切り替えボタンを約2秒以上押して電源ランプ（緑）を点灯させます。



4 カメラ本体の電源を入れて使います。

重要

- カメラの電源を切った状態では、安全のために約2時間後に電源ランプ（緑）が点滅し、オートオフします。
- ニカド電池がセットされている状態では、使用開始から約2時間後に電源ランプ（緑）が点滅します。続けてお使いになる場合は、ACアダプター / チャージャーのモード切り替えボタンで2度モードを切り替えて（充電モード AC電源モード）AC電源モードに再設定してください。
- ACアダプター使用時には本体に電池を入れてお使いください。

⚠ 注意

ニカド電池について

火災や感電防止のため、次のことをお守りください。

- 周りに燃えやすいものを置かないでください。
- 電池の電極をショートさせないでください。
- 電池に張ってある外装チューブ(ビニール)をはがさないでください。ショートすることがあります。
- 湿気やホコリの多いところや、海水や雨水のあたるところでは使用しないでください。
- 分解や改造をしないでください。

液漏れや破裂、ケガなどの防止のため、次のことをお守りください。

- 専用のACアダプター / チャージャーで充電してください。
- ニカド電池の + 極と - 極の向きを正しくセットしてください。
- 破損や寿命になっているニカド電池は使用しないでください。
- 火気に近づけたり火の中に投げ込んだりしないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 充電日の異なる電池、形式・銘柄の異なる電池、古い電池と新しい電池など電池を混用しないでください。
- ハンダ付けしないでください。

注意

<液漏れについて>

漏れた液が肌に触れると、火傷の原因になります。破損した電池に触れた場合は、すぐに水で洗い流してください。(石鹼は使用しないでください。)

また、液漏れが起こったときは、液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

使用上のご注意

ニカド電池は、完全に近い充電と放電により、約 300 回以上繰り返して使えます。

(常温で使用した場合)


充電は、周囲の温度が 5 ~ 35 の範囲で、通気性のよい場所で行ってください。

ニカド電池や AC アダプター / チャージャーが温かくなることがありますが、異常ではありません。

充電の完了したニカド電池を続けて充電すると、過充電になり電池の性能が劣化しますのでおやめください。

寒冷地では、使用時間が短くなります。

長期間 (3 か月以上) 放置したニカド電池は、十分に充電してからお使いください。

初めは使用時間が若干短めですが、完全な放電 (情報パネルの電池マークが  になるまで) と充電を繰り返すことで電池の容量が回復します。(リフレッシュ充電)

短い充電・放電の繰り返しは、避けてください。電池の容量低下と電池寿命の短縮の原因になります。(メモリー効果現象)

万一このような使いかたをしたときは、完全な

放電と充電を行ってください。電池の容量が回復します。(リフレッシュ充電)

高温になると自己放電が多くなり電池の容量が低下し、寿命が短くなります。高温になる場所 (密閉した自動車の中など) に、電池を放置しないでください。

充電したニカド電池で使用できる時間が短くなってきたときは、電池の寿命です。

指定の新しい電池をお求めください。

ニカド電池の充電や交換は、3 本まとめて行ってください。

ニカド電池を交換するときは、完全に充電した電池にすべて入れ替えてください。

また、電池の容量の不揃いによる性能低下を防ぐため、次のような電池の混用はしないでください。

- 他の充電式電池との混用
- 充電状態の異なる電池との混用
- 古い電池と新しい電池との混用

保存について

お使いにならないときは、完全に放電してからニカド電池を取り外して、涼しいところに保存してください。

充電直後のニカド電池を使わずに保存しても自然に放電してしまいます。お使いになる前にカメラの情報パネルの電池マークを確認してください。

リサイクルについて



Ni-Cd

ニカド電池は、リサイクルできる貴重な資源です。交換および使用済みのニカド電池の廃棄に際しては、金属部に絶縁テープを貼り、ニカド電池リサイクル協力店またはリコーサービス窓口へお持ちください。

メモリーカードの種類

撮影したデータは、メモリーカードにデジタル記録されます。そのため、記録したデータを消去したり、再び記録することができます。メモリーカードには、フラッシュメモリーを搭載したメモリーカードとSRAMカードがあります。

フラッシュメモリー搭載のメモリーカードについて
3種類のメモリーカード(別売り)を用意しています。画質モードを切り替えたときの静止画の記録枚数は次のとおりです。

品名	タイプ		型名	記録枚数	
	標準	高速		Eモード	Nモード
メモリーカード 2M			FC-2	39	19
メモリーカード 8M			FC-8H	162	81
メモリーカード 24M			FC-24H	492	246

標準タイプのメモリーカードでは、動画の記録はできません。記録枚数は、本製品でメモリーカードを初期化したときの枚数です。上記のメモリーカードと同等の市販製品では、次の仕様のもをお買い求めください。(DC-1での使用の可否はメモリーカードメーカーに必ずご確認ください。)

形式：PCMCIA 2.1/JEIDA 4.2 TYPE I 準拠 (AIMS仕様) 容量最大 24 Mバイト
AIMSとは、Auto Indexing Mass Storageの略で、デジタルカメラなどの携帯用機器の標準カードインターフェースを規定するものです。

重要 フラッシュメモリー搭載のメモリーカードには、標準タイプと高速タイプがあります。お買い求めの際に、お気をつけください。

補足 記録枚数の詳細について ➡ P.120

SRAMカードについて

SRAMカードには、さまざまな種類があります。そのため、当社の製品に適合しないものもあります。次の仕様のものをお買い求めください。

形式：PCMCIA 2.1/JEIDA 4.2 TYPE I SRAM カード

(アトリビュートメモリ付、SRAMカード用電池交換時のメモリーバックアップ用サブ電池内蔵)

容量...1M バイト、2M バイト、4M バイトのもの

重要

- 記録したデータを保持するために、カードをご使用になる前にリチウム電池を入れてください。詳しくは、お求めのSRAMカードに同梱されています説明書をご覧ください。
- SRAMカードで記録できる静止画の枚数は、フラッシュメモリー搭載のメモリーカードとほぼ同等です。
 - ➡ P.37, 120
- SRAMカードでは、動画の記録はできません。

JEIDA 4.2メモリーカードとは

上記の形式は、パソコンに統一して用いるためのメモリーカードで、日本のパーソナルコンピュータ等を統括する業界団体のJEIDAが規格化を行いました。1993年10月よりカードの名称が「PCカード」となり、日米の統一カードになりました。

* JEIDAとは(社)日本電子工業振興協会の英文字名称の略号です。

使用上のご注意

メモリーカードについて

カードを曲げたり、強い力やショックを加えたり、落したりしないでください。

静電気や電氣的ノイズの発生しやすい環境でのご使用・保管は避けてください。

高温多湿の場所、ホコリの多い場所、または腐食性のある環境下でのご使用、保管は避けてください。

コネクター部にごみや異物を入れないようにしてください。

危険なので、カードを火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。

フラッシュメモリー搭載のメモリーカードについて

電池を入れる必要はありません。

このカードには寿命があります。長期間ご使用になると、新しく記録ができなくなることがあります。

S R A Mカードについて

カードに記録したデータを保持するために、リ

チウム電池を使用しています。詳しくは、お求めのS R A Mカードに同梱されています説明書をご覧ください。

電池の+極と-極を確認して正しく入れてください。

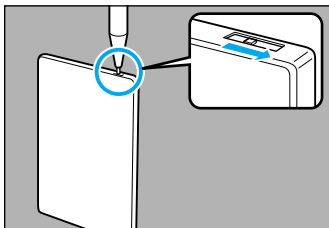
データについて

お客様または第三者がカードの使いかたを誤ったり、カードが静電気や電氣的ノイズの影響を受けたり、故障・修理や電池交換(S R A Mカードのみ)のときに、記録したデータが消滅することがあります。記録したデータの消滅による損害について、当社は一切責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

低温状態(0以下)でS R A Mカードを放置または保管すると、カード内蔵電池の能力が低下し、記録したデータが消滅することがあります。メモリーカードへ記録中にニカド電池・電源を取り外さないでください。

カード内のデータが破壊されることがあります。

ライトプロテクト



大切なデータを誤って消去したり、記録したりしないように、ライトプロテクトをかけてください。

重要 メモリーカードをカメラ本体にセットした状態で、ライトプロテクトの設定・解除の操作を行わないでください。

1 シャープペンシルなどの先で、矢印の方向にレバーをスライドします。

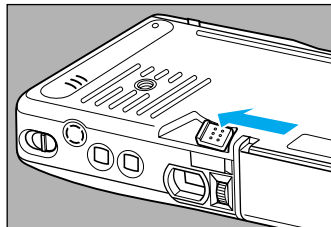
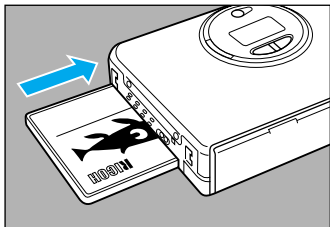
補足 ライトプロテクトを解除するときは、レバーを戻してください。

	記録	再生	消去
ライトプロテクトの設定	×		×
ライトプロテクトの解除			

: できる

× : できない

メモリーカードのセット



カメラの電源が切れていることを確認してからメモリーカードをセットします。

重要 カメラの電源が入った状態でメモリーカードの出し入れをしないでください。

補足 カメラに再生アダプターや液晶モニター(別売り)が接続されているときは、取り外してください。⇒ P.27

セットする

1 カードの表面を上にして、カード挿入口にセットします。

カメラ本体の側面と同じ位置になるまで、しっかり押し込んでください。

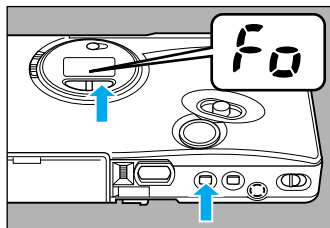
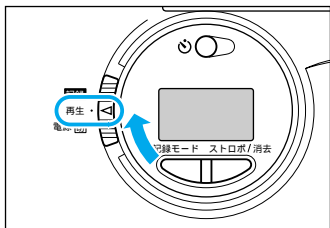
重要 メモリーカードをセットするときは、カードの向きを間違えないようにしてください。また、カードは斜めに挿入しないでください。

取り出す

1 カード取出しレバーを矢印の方向にスライドさせて取り出します。

重要 メモリーカードへ記録中にカードを取り出さないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。

メモリーカード 初期化

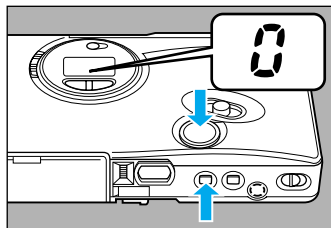


新しいメモリーカードをお使いになるとき、または他の機器（パソコンなど）で使用していたメモリーカードをお使いになるときは、データ形式をそろえるために初期化（フォーマット）が必要です。

補足 ライトプロテクトが解除されていることを確認してください。
➡「ライトプロテクト」P.40

1 メインスイッチを [再生] にスライドします。

2 ストロボ / 消去ボタンを押しながら日付 (+) ボタンを約 2 秒以上押し続けると情報パネルに「F0」が表示されますので日付 (+) ボタンを押した状態で手順**3**に進みます。



3 続けて日付 (+) ボタンを押したまま、ストロボ / 消去ボタンの指をはなしてリリースボタンを押します。

「F0」が点滅し、初期化を開始します。初期化が終了するとブザーがなり、情報パネルのカウンター表示が0になります。

初期化が完了しました。

重要 記録されているメモリーカードを初期化すると、記録されているデータがすべて消去されます。

補足

- フラッシュメモリー搭載のメモリーカードをお使いの場合、初期化が完了するまでに時間が数十秒かかることがあります。
- 連写ファイル、動画ファイル、音声ファイルを再生し、一時停止した状態では、初期化できません。

メモリーカードを安定してご使用いただくため、次のようなときに、できるだけ初期化をしてください。

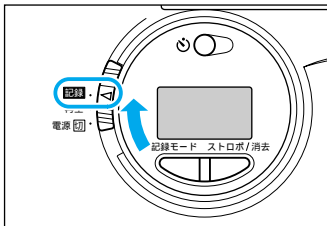
メモリーカード内のすべてのデータを、他の機器（パソコン、ビデオデッキなど）にコピーしたあと消去と記録を繰り返す（約4,000回）行ったとき

必要なデータは、あらかじめ他の機器にコピーしてください

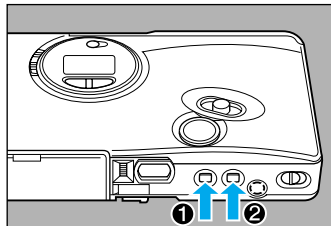
日付・時刻を 合わせる

撮影時の日付や時刻をメモリーカードに記録できます。

- 補足**
- 本体にデータ用電池をセットしてから操作してください。
➡「本体にデータ用電池をセットする」P.19
 - 時刻は24時間表示です。0:00は真夜中を、12:00は正午を表します。

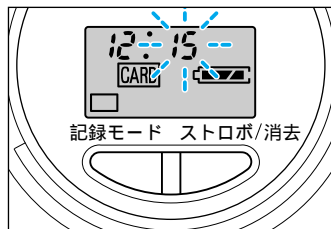
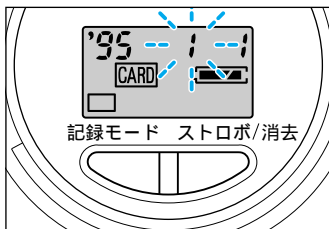
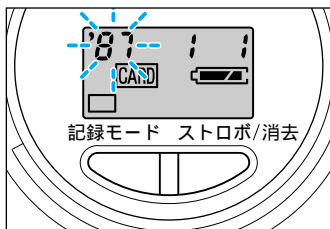


1 メインスイッチを[記録]にスライドします。



2 日付(+)ボタンを押しながら時刻(送り)ボタンを押します。

約2秒以上ボタンを押し続けてください。情報パネルの年表示が点滅します。



3 日付 (+) ボタンを押して、点滅している数字を変更します。

日付 (+) ボタンを1回押すたびに、数字が1ずつ進みます。押し続けると早く進みます。行き過ぎたら、日付 (+) ボタンを押し続けて、もう一度合わせてください。

補足 点滅している数字を変更しないときは、手順4の操作を行います。

4 時刻 (送り) ボタンを押して、修正したい部分を点滅させます。

手順3、4の操作を繰り返して、必要な部分を修正します。日付を合わせた後、もう一度時刻 (送り) ボタンを押すと、時刻が表示されます。同様に時刻を合わせてください。

補足 途中で操作を間違えたら、時刻表示が消えるまで時刻 (送り) ボタンを押し続け、手順2からやり直してください。

5 分を合わせた後、もう一度時刻 (送り) ボタンを押します。

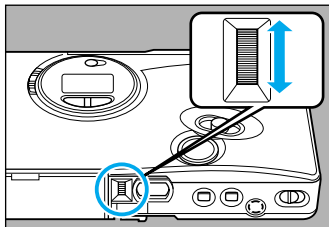
時計が動きはじめます。

補足 時報と同時に時刻 (送り) ボタンを押すと、秒合わせできます。

セットした日付や時刻は、日付 (+) ボタンまたは時刻 (送り) ボタンを押すと、情報パネルに表示されます。ボタンをもう一度押すと、表示は消えます。

視度を調整する

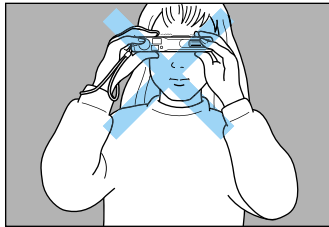
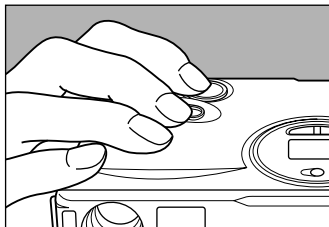
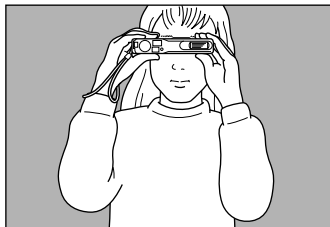
ファインダーのオートフォーカスマークがはっきり見えるように、視度を調整します。



1 視度調整つまみを上下に動かして、オートフォーカスマークがはっきり見えるように調整します。

カメラの構えかた

撮影のときにカメラが動いてしまうことを「カメラブレ」といいます。カメラブレの映像は、画像全体がブレてしまい、シャープに写ったところがありません。カメラが動かないように正しく構えてください。



1 カメラを図のように両手でしっかり持ちます。ひじは軽く体につけ、カメラを軽く顔に押しつけるように固定し、ファインダーをのぞきます。

2 リリースボタンに人さし指の腹が軽く触れるようにします。

重要 リリースボタンから人さし指を離しておいて、撮影のときに一気にリリースボタンを押し込むと、カメラブレの原因になります。

補足 縦位置に構えて撮影した被写体を再生すると、被写体は横向きに表示されます。

カメラ前面のレンズ、オートフォーカス窓、ストロボ発光部などに指や髪、ストラップなどがつかないように注意してください。